

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和8年3月15日
調査研究事項	<p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態に応じた教育内容の充実と、効果的な指導についての研究を行う。〔①②③④〕 ・より多くの入学希望者への教育機会の提供拡充に資するため、義務教育未修了者・入学希望既卒者・外国籍の者等に対する学習活動の工夫改善と実態把握に取り組む。〔①②③④〕 ・教育機会の提供拡充について、これまで先進的に取り組んできた本市の状況を積極的に発信するとともに、他都市との情報交換を推進する。〔①②③④〕 ・近畿夜間中学校生徒会連合会及び全国夜間中学校研究大会を通じて、他地域との交流を進めて取組の充実を図る。〔①②③④〕 ・研修会等に参加し協議することにより、大阪市の取組を他都市に伝えるとともに、他都市の先進的な取組を新たに得ることで、教職員の資質を向上させる。〔①②③④〕 ・専門スタッフ（日本語指導）を活用した教育活動の在り方について研究する。〔③〕 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①中学校教育を実施するに必要な、高齢者向けの教育課程の在り方 ②不登校経験者向けの支援の在り方 ③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方 ④ICTを活用した生徒の学習活動の支援の在り方 </div>
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の三つの夜間学級では、義務教育未修了者に加えて入学希望既卒者、外国籍の者等、受け入れる生徒は多様化しており、年齢や国籍、生活習慣が異なる生徒への対応が難しく、生徒一人一人に寄り添った学習指導が求められる。また、小学校未就学の者から中学を卒業した既卒者まで在籍するという現状において、一人一人の習熟の差は大変大きく、通学の目的も中学校教育の履修のみならず、高等学校受験など多様な中で、「誰一人取り残さない学力の向上」を実現する。 ・本市中学校夜間学級設置校の校長3名と本市教育委員会事務局で、「中学校夜間学級に関する連絡会」を学期に1度開催し、市内の夜間中学3校をつなぐ取組を模索する。 ・大阪府教育庁の作成する「中学校夜間学級実態調査資料」をもとに、他都市と本市の比較から本市の特徴を改めて把握し、多様な生徒が通い続けられる夜間学級の在り方について探求する。 ・中学校夜間学級において教育機会の提供拡充をより一層推進するため

	<p>に、生徒一人一人の実態に応じた教育内容の充実と効果的な指導を行うことが必要であり、そのような指導の向上を図るための調査研究を行うとともに、その成果を積極的に広報する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、さまざまな生徒への教育機会の提供拡充に資するため、中学校夜間学級について広く他都市の情報収集及び情報提供を行う等、調査研究を推進する。 ・日本語指導を必要とする新渡日生徒の急増により、専門スタッフ（日本語指導）の配置が急務となるため、効果的な日本語指導についての研究を進めることで、専門スタッフ（日本語指導）を育成する。
調査研究の成果	<p>I 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市中学校夜間学級においては、外国籍生徒や不登校経験者等、多様な背景をもつ生徒が在籍しており、教育ニーズは年々多様化している。特に近年は、新渡日の外国籍生徒の増加に伴い、効果的な教科学習としての日本語指導の在り方が重要となっている。 ・こうした状況を踏まえ、本調査研究では、文集作成や教科学習としての日本語指導を中心とした教育活動、教職員研修、他都市との情報交換等を通して、中学校夜間学級における効果的な学習支援の在り方について研究を進めてきた。 ・生徒文集の作成については、1年間の学級活動の柱として年度当初より取り組んだ。文集指導を通して、生徒理解を深めながら、生徒の日本語運用能力の育成を図ることができた。また、文集作成を通して、生徒が入学前の自身の姿を振り返り、共有することで、自己肯定感の醸成につながった。さらに、各校で作成した文集を府内の夜間学級や学校協議会、昼間の学校、地域等に配付することにより、中学校夜間学級の教育活動について広く発信することができた。 ・教育機会拡充に関する全国的視野を得るため、第71回全国夜間中学校研究大会に参加し、他都市の夜間学級の取組について情報収集を行うとともに、本市中学校夜間学級の取組について情報発信を行った。また、近畿夜間中学校生徒会連合会主催の新生交流会、連合運動会、連合作品展への参加を通して、近畿圏の夜間学級との交流や情報交換を行うことができた。 ・教職員の指導力向上に向けては、教材作成や日本語指導に係る意見交換、研究授業等を校内研修として実施した。特に外国籍生徒の増加に対応するため、日本語指導の方法や教材の工夫について検討を行い、外国籍生徒の実態に応じた指導の在り方について研究を進めた。また、ICTを活用した情報共有や研修参加の機会を確保するとともに、ICTを活用した学習支援の可能性についても検討を行った。

- ・本市中学校夜間学級設置校の校長3名と教育委員会事務局による「中学校夜間学級に関する連絡会」を学期に1度開催し、市内3校における教育実践や課題について情報交換を行った。加えて、大阪府教育庁主催の「中学校夜間学級主管課長会」や「大阪府夜間中学連絡協議会」、「中学校夜間学級訪問」等を通して、大阪府内の他都市教育委員会との情報交換を行い、中学校夜間学級における教育実践や課題について共有することができた。
- ・校外学習については、文化施設や地域資源を活用した学習活動を実施した。校外学習は、学齢期に十分な教育を受けることができなかった生徒にとって、実体験を通じた学びを得る貴重な機会となるとともに、生徒同士や教員との関係づくりを深める機会ともなった。また、こうした活動は学習意欲や出席意欲の向上にもつながり、中学校夜間学級での学びの継続を支える重要な教育活動となった。
- ・より多くの希望者への教育機会の提供拡充に資するため、本市教育委員会事務局として「大阪市立中学校夜間学級入学説明会・相談会」を市内4箇所において12月と3月の2回実施し、中学校夜間学級への入学希望者への情報提供や相談対応を行った。
- ・以上の取組を通して、本市中学校夜間学級における多様な背景をもつ生徒に対する学習支援の在り方について実践的な知見を得ることができた。また、不登校経験者や既卒生徒への学習支援の在り方についても検討を進めることができた。